

# 県外派遣報告書

一社) 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第75回全日本大学バスケットボール選手権大会	開催地	東京都(大田区総合体育館)
報告者名	武井晋平	派遣期間	令和5年12月7日 ~ 12月8日

## 12月7日(木)

審判員	CC 大野哲広(奈良) U1 武井晋平(栃木) U2 中野嗣久(東京)		
カード	神奈川大学(関東11位) vs 日本経済大学(九州1位)		
会場	大田区総合体育館	Aコート	
<p>・PGCでは、「スピードアジャスター」を意識していくこと。→交代をスムーズに。自分がベンチ前で背を向けている時は、オポジットのセンターが確認。フリースロー時にディフェンス側のリバウンダーのラインナップが3人入ることを確認すること。</p> <p>・フリースロー時の本数の確認を丁寧に。ファウルをレポートしたレフリーとボールを渡すレフリーの本数をきちんと確認。</p> <p>・自分のプライマリをしっかりと吹いていくこと。リードのローテーションの際が、メカが一番崩れるところなので、リードはクローズダウンからピンチしたらローテーションまでの距離を短くする。ミッドラインを越えていないで、ドライブやショットがあった場合は、バックペダル。</p> <p>ゲームは、日経大がリードする形で進んだ。4Qの終盤、神大が追い上げようと、点数が詰まってきた場面もあったが、日経大がそのまま逃げ切る形となった。前半は、自分のクロック管理の部分で、フリースローのバイオレーション時にクロックが動いてしまった場面があり、違和感があったが修正できなかった。CCメンタリティを発揮して修正に行くべきであった。プライマリの判定で、自分がセンターでのポジションの際にドライブに行きブロックorチャージがノーコールの判定であったが、映像で確認して、笛を入れておきたい場面であった。現場にもう少し早く行っていれば笛が鳴っていると感じた。ポジションに早く入ることを心がけていきたい。プライマリの意識と目の前で起きていることへの判定。またケイデンスホイッスルを意識して今後も取り組んでいきたい。</p>			

## 12月8日(金)

審判員	CC 近藤巧(北海道) U1 武井晋平(栃木) U2 目崎一将(東京)		
カード	早稲田大学(関東13位) vs 東海大学(関東5位)		
会場	大田区総合体育館	Bコート	
<p>・PGCでは、ベイシクなメカニクスの確認を行った。ローテーション、センター側でのダブルチームがあった場合の対応、エッジの判定。バックコートに2ペア以上残っていた場合センターが残る等。基本的な部分を振り返った。また、時計の管理、ファウルの数、シューターの確保についても丁寧に進めていくことを確認した。全国大会でも、県内で学んでいることがそのまま生きてくる内容であった。ペイントエリアのドライブのプライマリの話もあり、ブレードにならないよう、リードがプライマリとして判定していくことを申し合わせた。昨日のPGCで出た話も、クルーで共有を行った。</p> <p>ゲームは、東海大学がリードする形で進んだ。自分の目の前の判定を大切に、プライマリの意識を持つことと、リアクション等で判定をしないことなど、しっかりレフリーディフェンスできるポジションを意識して試合に臨んだ。中でもゲーム中、出血した選手がいたため、ゲームを止めた場面があったが、マジックタイムで時間を正しい時間に修正して再開することにトライできた。時間の管理については、日頃から意識的に行っていないと実践できないため、日頃のトレーニングがこうした場面で生きてくると感じた。プライマリの意識の継続とケイデンスホイッスル、ファウルの決着は、これからもより継続して良いポジショニングで判定できるよう意識していきたい。また映像で振り返った際に、最初のジャンプボールの際にサークルカットがあり、U1であった私は準備が足らず、吹くことができなかった。ゲームの始まりの部分も何気なくタップを見るのではなく、普段あまり起きないようなことが突如として起きることも想定されるため、備えておく必要があると身をもって感じた。40分間笛が必要な場面で精度高く判定判断できるように、今後も意識して取り組んでいきたい。</p>			